

平成29年度 全国学力・学習状況調査
分析のまとめと改善策

平成29年9月
札幌市教育委員会



- ◇「札幌の成果と課題」を踏まえ、以下の三点を重視して学校での学びを改善していく必要がある。
- 子どもが、**学ぶことの意義や楽しさ**を感じ取り、自ら学び続けようとする意欲をもつこと
- 子どもが、自ら考えたり表現したりするなどの**多様な学びを経験し、身に付けること**
- 子どもが、学び続けるための**基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、新たな学びに自信をもって挑戦**していけるようになること

◇学校での学びの質を高め、家庭とも一体となつて「学ぶ力」を育むことを目指して「さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン」を実施する。

平成29年度 さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン

「札幌市教育振興基本計画」(H26年度～)に位置付けて推進

SAPP
RO

◆分かる・できる・楽しい「授業づくり」の充実

「子どもが自ら考え、判断し、表現する学習活動」の充実

- 自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する**課題探究的な学習**を取り入れた授業の工夫改善を図る。
- *「体験的な活動」「学び合い」「言語活動」等を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。

学ぶ意欲の向上

「自分への自信をもたせるきめ細かい指導」の充実

- 児童生徒の実態に応じて、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図り、子どもが分かる・できる喜びを実感できるよう、**個に応じた指導の充実**を図る。
- *「TTの有効活用」「定着を図る授業を位置付けた単元構成」「朝の時間を活用した学習活動」等

5つのポイント

- 1 難しいことにも挑戦する意欲を伸ばします。
- 2 「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」を身に付けられるようにします。
- 3 意味理解を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力を伸ばします。
- 4 自分の「伸び」を実感して、新たな目標をもてるようにします。
- 5 生活を自らコントロールする力を育みます。

各学校が「学ぶ力」育成プログラムを改訂し実行

○各学校が、自校の児童生徒の「学ぶ力」の実現状況を踏まえて、指導方法等の**課題を明確化し、改善に向けて作成したプログラムの改訂、実行**に取り組む。(教育課程等への位置付け、指導方法の改善など)

教員の指導力向上に向けた施策

具体的な改善策について教育委員会が支援

札幌市教育センター研修事業

- 授業づくりに関する**研修の充実**
- ・実効性の高い研修の充実
- ・指導資料等の積極的な活用

札幌市教育研究推進事業

- 「分かる・できる・楽しい授業」に関する**研究の推進**
- 次期学習指導要領の実施に向けた**研究の推進**
- ・教職員の協働による授業づくりに関する実践的研究の推進
- ・研究・研修の成果の発信

教育課程研究協議会・説明会等

- 「分かる・できる・楽しい授業」の**在り方を協議**
- 次期学習指導要領の実施を踏まえた教育課程の**在り方を協議**
- ・事例の共有
- ・研究開発事業の成果発信等

札幌市研究開発事業

- 指導方法等の**モデル事例開発**
- ・研究推進校によるモデル事例の開発
- ・モデル事例の共有と活用

◆学校、家庭が一体となった「習慣づくり」「環境づくり」の推進

情報発信の充実

○家庭、地域への情報発信を充実

- ※家庭や地域との共通理解のもとで「学ぶ力」の育成に向けた取組を推進
- ・リーフレット**さっぽろっ子「学び」のススメ**の配布と活用
- ・「札幌市教育フォーラム」の開催(H25.10.29/H26.2.26/H27.5.1)
- ・札幌市PTA協議会との連携
- ・広報活動の充実・工夫

「学ぶ力」の育成推進協議会

○「学ぶ力」の育成に向けた取組について意見交換

- ※会議メンバー：保護者代表、大学教授、校長、教員等
- ・学校、家庭が一体となった子どもへの働きかけについて、「**学ぶ力**」の育成に向けた**5つのポイント**から協議(さっぽろっ子「学び」のススメの活用方法等について提案)
- ・ICTの活用、学生ボランティアの活用などの環境整備

校長会との連携強化

○双方向による「学ぶ力」の育成

- ※校長会との多様な機会における双方向の連携を強化
- ・「学ぶ力」の育成に向けた協議
- ・各区の教務主任会への**指導主事の派遣**
- ・校長会への情報提供、啓発、助言
- ・各学校の研修会等の充実

子どもの自己評価を生かした「学ぶ力」の評価と指導の改善 ～20の指標～

- 教育施策や教育指導の改善に反映するため、**札幌市全体の共通指標を設定し**、子どもの学習状況等を把握するとともに、分析する。 ※各種調査結果+子どもの自己評価
- ①授業中、自分で疑問やめあてをもって学習に取り組もうとしている。②分からないことは、自分で調べてはつきりさせようとしている。③勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがよくある。④意見の違う人とも、よく話し合おうとしている。⑤今の自分にとって、どのように勉強するのがよいか分かっている。⑥勉強で同じ間違いをくり返さないように気をつけている。⑦新しく習ったことは、くり返し練習をしている。⑧普段から、計画を立てて勉強している。⑨分からないことは、そのままにせず、分かるまで努力するようにしている。⑩意見を書くときには、その理由をはつきりさせて書くようにしている。⑪意見を発言する前に、自分の考えがうまく伝わるように、話の内容や順序を考えている。⑫授業中、自分の意見を進んで発言している。⑬授業中、友達や先生の説明、意見を終わりまで聞いている。⑭人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがよくある。⑮習ったことや知っていることを使って、自分で考えることが大事だと思う。⑯学校で好きな授業がある。⑰授業中に分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。⑱困ったとき、悩みがあるときは、人に相談するようにしている。⑲外国の人と交流する機会をもちたいと思う。(話をしたり、一緒に何かの活動をしたりするなど)⑳札幌には、好きな場所やものがある。(自然、建物、イベント、歴史、文化など)

検証改善サイクルの確立

評価

改善

検証改善

分析のまとめ

教科に関する調査結果 **学ぶ意欲【全体】** **学ぶ意欲【国語】** **学ぶ意欲【算数・数学】** **課題探究的な学習** **学習習慣の状況** **読書習慣の状況**

◆知識・技能の定着については、小学校国語（漢字を正しく書くことなど）、算数（小数の計算など）に継続的な課題。
 ◆「活用」に関しては、中学校で全国平均正答率を上回る設問が見られる。一方で、「自分の考えを書くこと」や「判断の理由や解決の方法を説明すること」などの設問で全国と同様に無回答率が高く、小中学校ともに課題。

◇「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦すること」「自分にはよいところがあると思うこと」について、小中学校ともに肯定的な回答の割合が上昇傾向
 ◆「将来の夢や目標をもってること」について、小中学校ともに、下降傾向にあったが、今年度、改善の兆し
 ☆子どもが自分の「伸び」や学びのよさ、できるようになった喜びを実感したり、今の学びが将来にどう生きるのかを考へたりできるようにすることが重要→ポイント4・チェック6に関連

◇小中学校ともに、多くの項目で肯定的な回答の割合が上昇傾向
 ◇特に中学校における肯定的な回答の割合の上昇が顕著
 ◆考えを話す・書くことや、話の組み立てを工夫することについては、小中学校ともに、肯定的な回答の割合が他の項目に比べ低い状況
 ☆小中学校ともに、授業における話し合い活動を通して、相手に伝える内容を整理するなど、より一層「人と学び合う方法」を身に付けていくことが重要→ポイント2・チェック4に関連

◇小中学校ともに、多くの項目で肯定的な回答の割合が上昇傾向
 ◆中学校における「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」という項目は、30～40%台を推移
 ☆小中学校ともに、子どもが自分の「伸び」や学びのよさ、できるようになった喜びを実感できるようにし、学んだことを日常生活に結び付けていくことができるようにすることが重要→ポイント3、4・チェック6に関連

◇自分たちで課題を立てて、その解決に向けて探究的に学習活動に取り組むことについて、小中学校ともに昨年度より上昇
 ◇特に中学校において、「学級の生徒との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」という項目が、大きく上昇
 ◆「自分の考えを深めたり、広げたりすること」については、小中学校ともに60%台で推移
 ☆子どもが学びのよさや、できるようになった喜びを実感できるよう、話し合う活動が個々の子どもの深い学びにつながるようにすることが重要→ポイント3、4・チェック5、6に関連

◇小中学校ともに、肯定的な回答の割合が上昇傾向
 ◇小中学校ともに、平日及び休日の学習時間が1時間以上である割合が上昇。特に、小学校においては、平日、休日ともに全く学習しない子どもが半減
 ☆各学校において、具体的な取組を図ってきた成果
 ◆平日の学習時間が1時間未満の子どもの割合が、小学校では41%程度、中学校では31%程度であるなど、学習習慣については、継続的な課題
 ☆子どもに望ましい生活習慣や学習習慣が身に付くよう、学校と家庭が目標を共有し、連携して取り組んで行くことが重要→ポイントの5に関連

◇本市の子どもは全国と比較して「読書好き」が多い
 ◇小中学校ともに、今年度、これまでで最も高い数値
 ☆札幌らしい特色ある学校教育として、平成22年度から本格的に「読書」に係る取組を行ってきた成果
 ☆本を読んだ経験が、生活に生きたり、自分の考えに影響を与えたりという実感を子どもが感じられるようにすることが重要→ポイント2、5に関連

■各学校の創意工夫による指導方法等の工夫改善～「学ぶ力」育成プログラムの活用

- 「学ぶ力」育成プログラムの作成・実行・改善(PDCAサイクルによる検証改善)(H26年度～) * 各学校のHPに掲載
 - 「学ぶ力」育成プログラムの様式改訂(H29～) * 徹底して行う取組の焦点化・具体的な取組に対する成果検証等
 - 「学ぶ力」育成プログラムの改善に向けた校内研修の充実
 - ・指導主事による助言機会の拡充
 - ・研究開発事業における実践例の普及
 - ・校内研究の代表者に向けた研修会(札幌教育事業 校内研究推進会議)
 - 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントを柱として、次の2つの視点から授業改善
 - 1. 課題探究的な学習の充実
 - 2. 学習評価の充実

- 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイント**
1. 難しいことにも挑戦する意欲を伸ばします。
 2. 「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」を身に付けられるようにします。
 3. 意味理解を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力を伸ばします。
 4. 自分の「伸び」を実感して、新たな目標をもてるようにします。
 5. 生活を自らコントロールする力を育みます。

■全市での「課題探究的な学習の推進」

- 自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する課題探究的な学習を取り入れた授業の充実
 - 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
 - セルフチェックを活用した授業改善
 - 教育委員会において、課題探究的な学習に関する考え方や各施策の関連を整理して、さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランに位置付け、各学校における取組をより一層推進

- セルフチェック(例)**
1. 子どもが興味・関心、疑問を十分にもてるようにするためには？
 2. 子どもが意欲を持続させることのできる課題を設定するためには？
 3. 子どもが課題の解決に向けて見通しをもてるようにするためには？
 4. 子どもが協働して課題解決に向かえるようにするためには？
 5. 子どもが多面的・多角的に考察できるようにするためには？
 6. 子どもが学びのよさや、できるようになった喜びを実感し、次の課題に向かえるようにするためには？

■家庭への啓発等の充実～さっぽろっ子「学び」のススメの活用

- さっぽろっ子「学び」のススメの活用
 - 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントを柱として、学校と家庭が子どもの学習習慣づくり・運動習慣づくり・生活習慣づくりを進める際の指針として活用
 - さっぽろっ子「学び」のススメを基に、学校と家庭が目標を共有し、子どもの主体的な学びを共に支えていく取組を充実

*「学ぶ力」育成プログラム、「教育課程編成の手引」を活用する場の充実→札幌市教育センター研修事業、札幌市教育研究推進事業、教育課程研究協議会・説明会

<資料> 経年変化 ～児童生徒質問紙調査から～

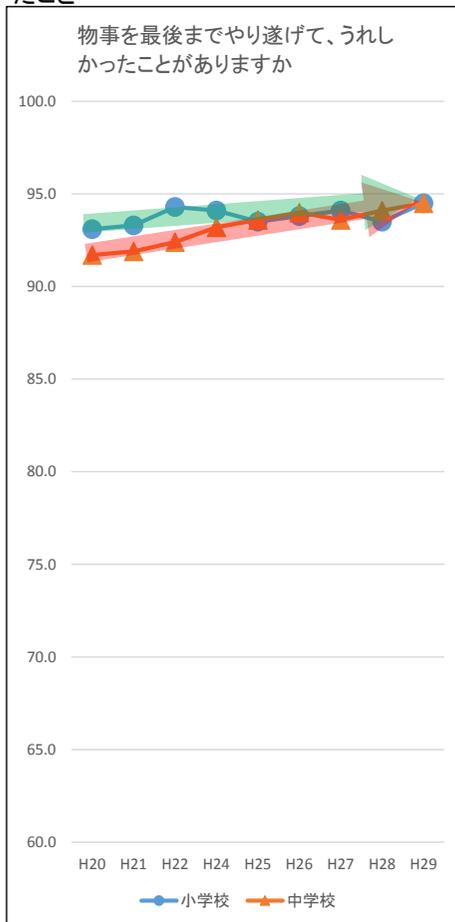
※折れ線グラフは、肯定的な回答の割合の経年変化を示したものである。

※平成23年度は、東日本大震災の影響等により、国において調査の実施を見送っている。

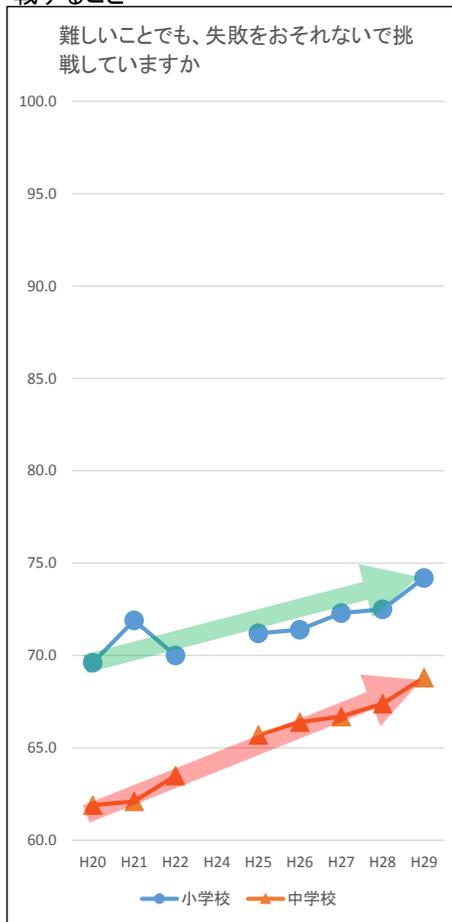
※平成22、24年度は、抽出調査で実施している。

学ぶ意欲の状況【全体】

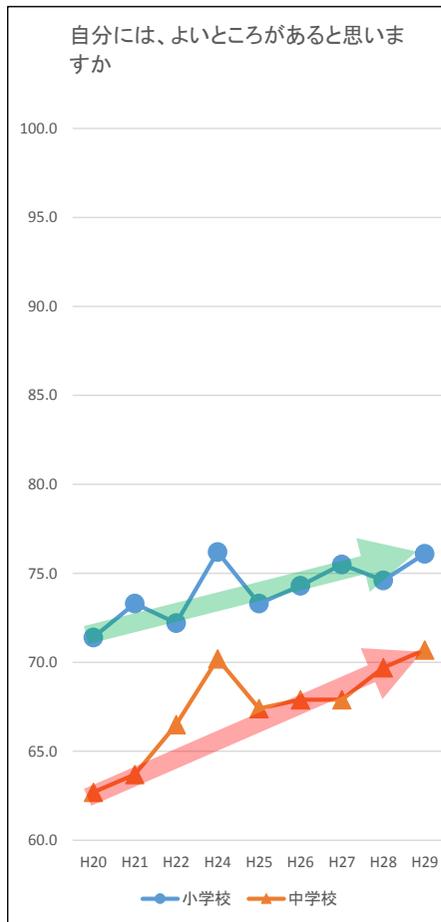
◎物事を最後までやり遂げて、うれしかったこと



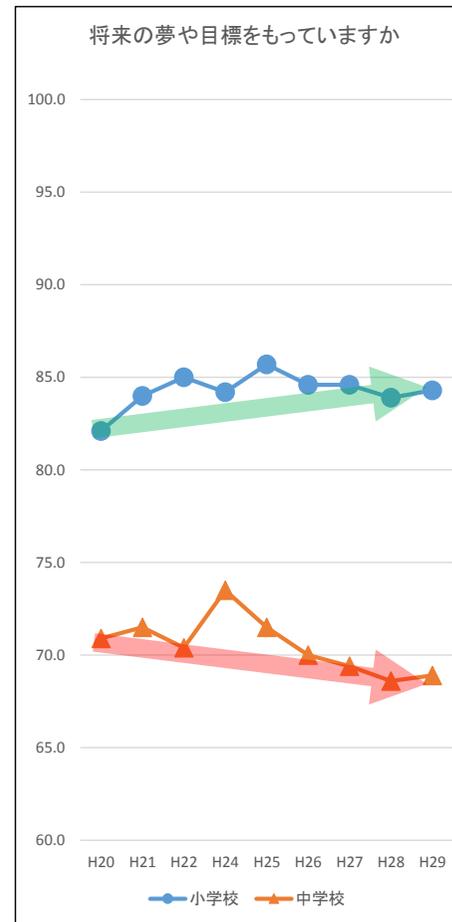
◎難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦すること



◎自分には、よいところがあると思うこと



◎将来の夢や目標をもっていること



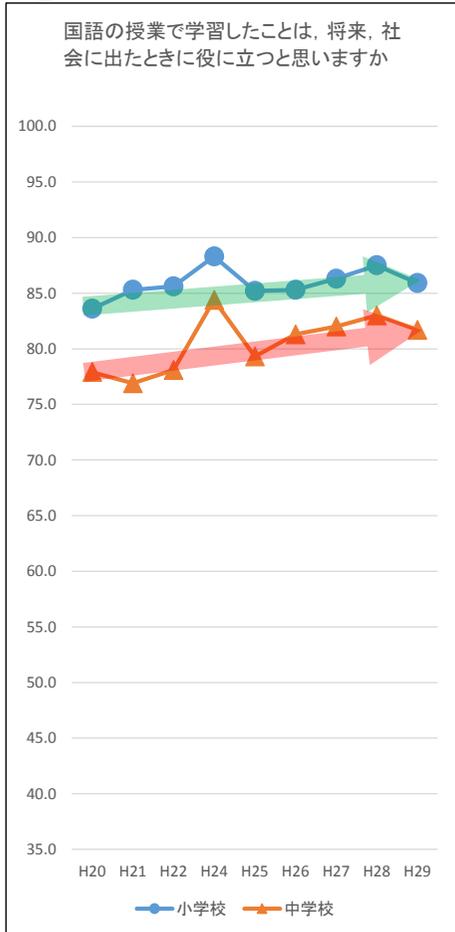
◇「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦していますか」「自分にはよいところがあると思いますか」という項目において、小学校、中学校ともに肯定的な回答の割合が上昇傾向にある。

◆「将来の夢や目標をもっていますか」という項目において、小学校、中学校ともに、平成25年度から下降傾向にあったが、今年度、改善の兆しが見られた。

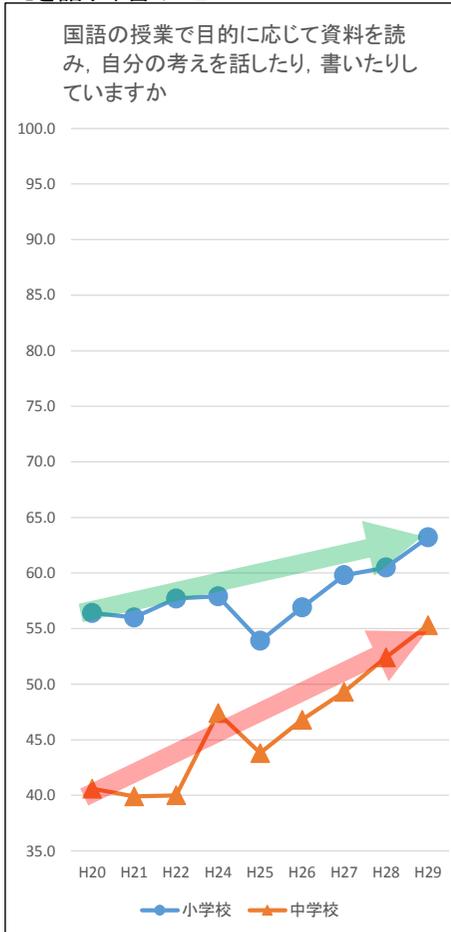
☆子どもが自分の「伸び」や学びのよさ、できるようになった喜びを実感したり、今の学びが将来にどう生きるのかを考えたりできるようにすることが重要である。→「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントの4及び「課題探究的な学習」におけるセルフチェック例の6に関連

学ぶ意欲の状況【国語】

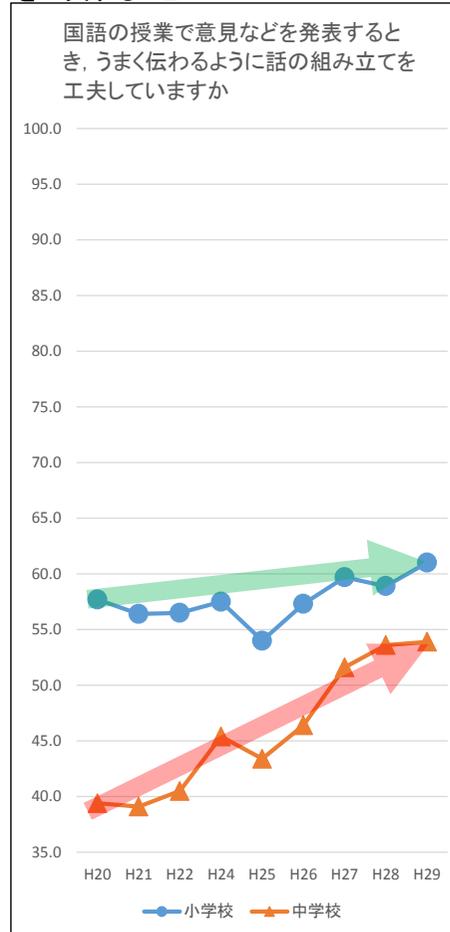
◎国語が社会に出たときに役立つと思うこと



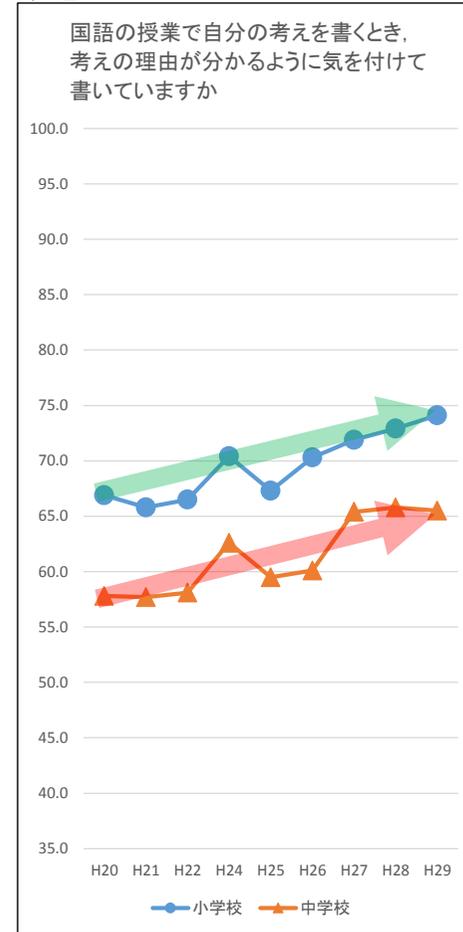
◎国語で、目的に応じて資料を読み、考えを話す、書くこと



◎国語で、発表するとき、話の組み立てを工夫すること



◎国語で、考えの理由が分かるように書くこと



◇小学校、中学校ともに、多くの項目で肯定的な回答の割合が上昇傾向にある。

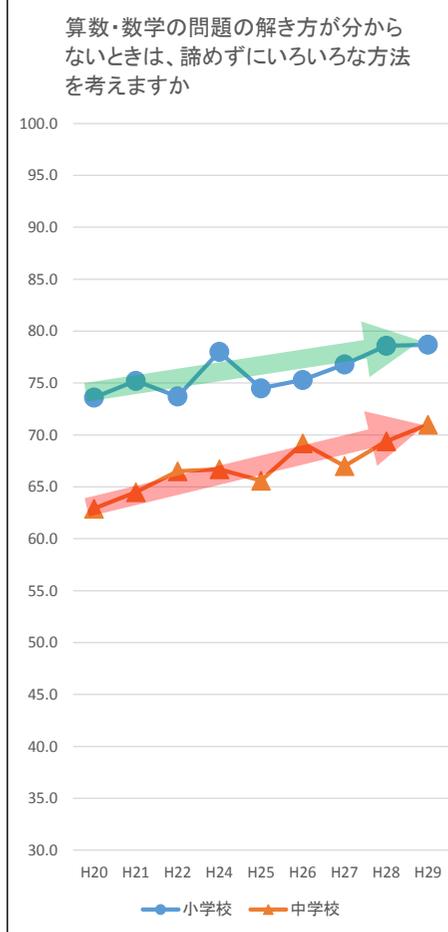
◇特に中学校における肯定的な回答の割合の上昇が顕著であり、「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか」という項目においては、平成20年度と比較して15ポイント近い上昇が見られる。

◆しかし、「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか」という項目においては、小学校、中学校ともに、肯定的な回答の割合が他の項目に比べ低い状況。

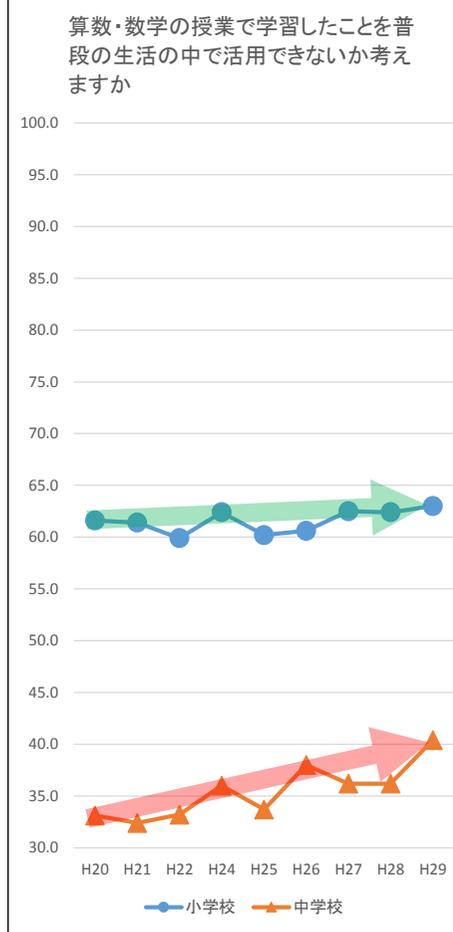
☆小学校、中学校ともに、授業における話し合い活動を通して、相手に伝える内容を整理するなど、より一層「人と学び合う方法」を身に付けていくことが重要である。→「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントの2及び「課題探究的な学習」におけるセルフチェック例の4に関連

学ぶ意欲の状況【算数・数学】

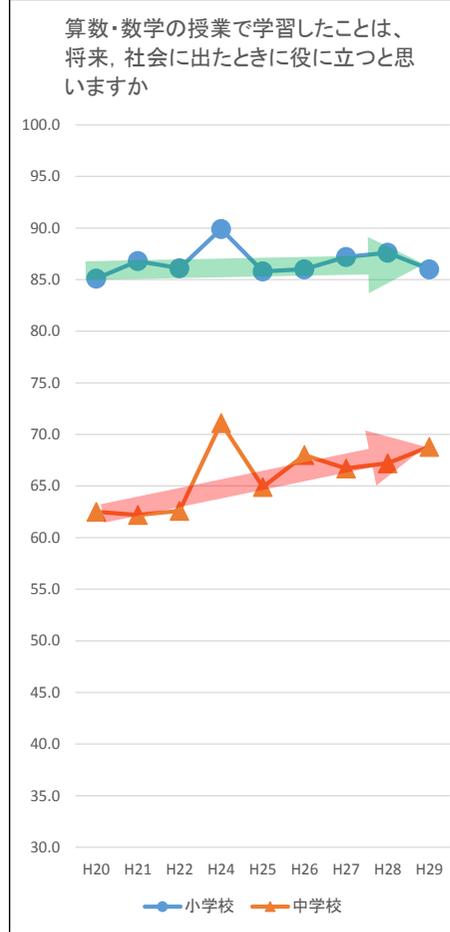
◎算数・数学で、諦めずに方法を考えること



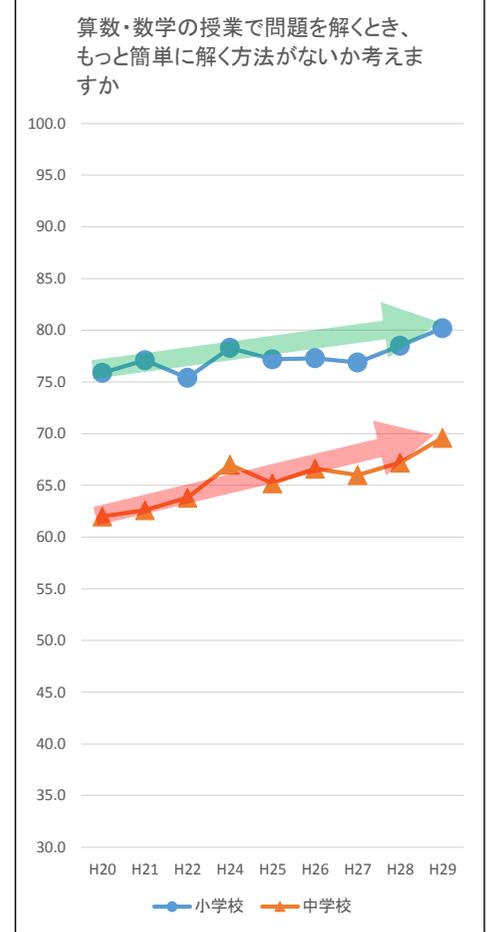
◎算数・数学が、生活の中で活用できないか考えること



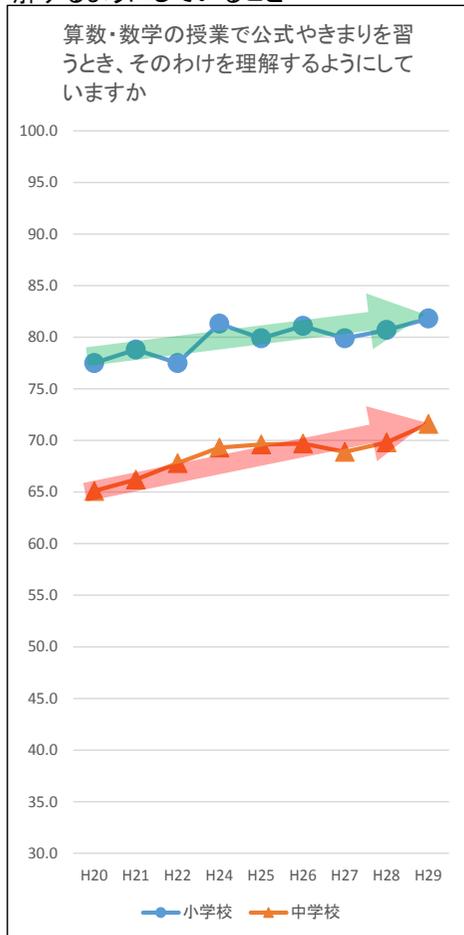
◎算数・数学が、社会に出たときに役立つと思うこと



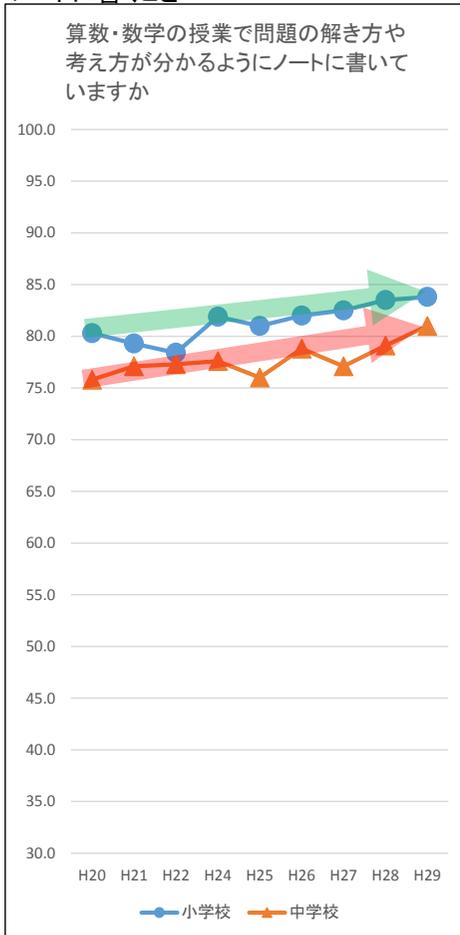
◎算数・数学で、簡単に解く方法がないか考えること



◎算数・数学で、公式やきまりのわけを理解するようにしていること



◎算数・数学で、考え方が分かるようにノートに書くこと



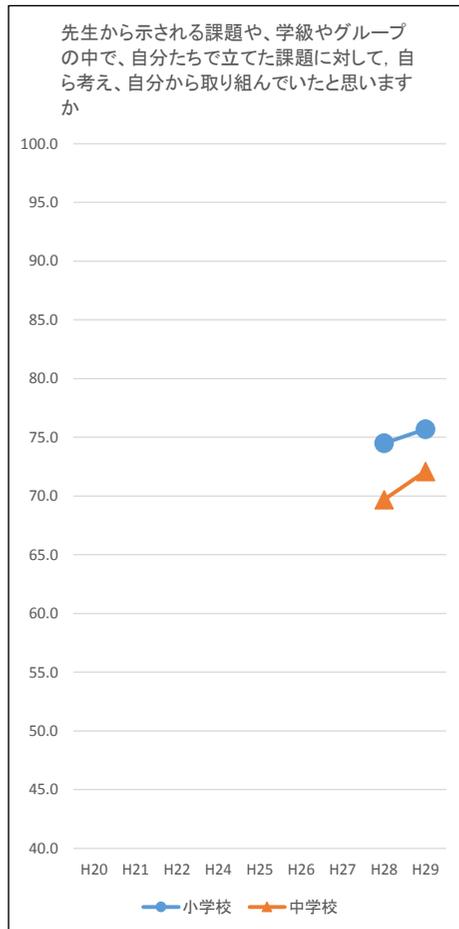
◇算数・数学においては、いずれの項目においても、肯定的な回答の割合が上昇傾向にあり、特に小学校においては、80%を超える項目も見られる。

◆中学校における「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」という項目は、30~40%台を推移している。

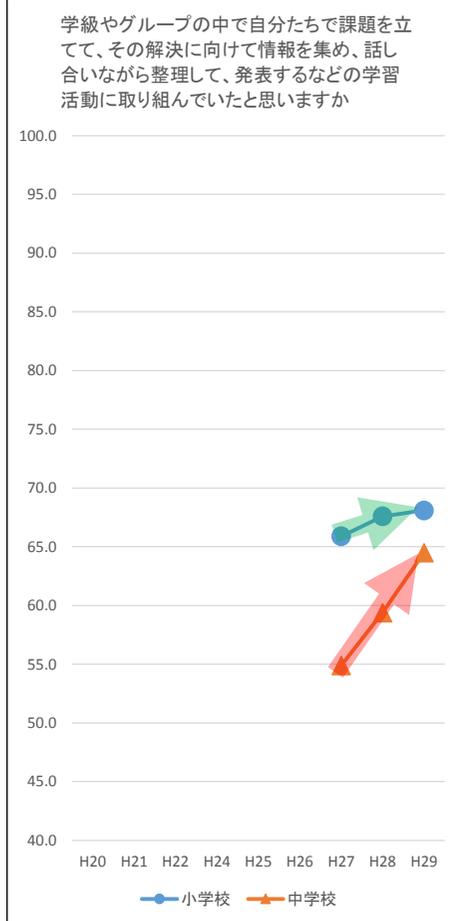
☆小学校、中学校ともに、子どもが自分の「伸び」や学びのよさ、できるようになった喜びを実感できるようにし、学んだことを日常生活に結び付けていくことができるようにすることが重要である。→「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントの3、4及び課題探究的な学習におけるセルフチェック例の6に関連

課題探究的な学習の状況(主体的・対話的で深い学び)

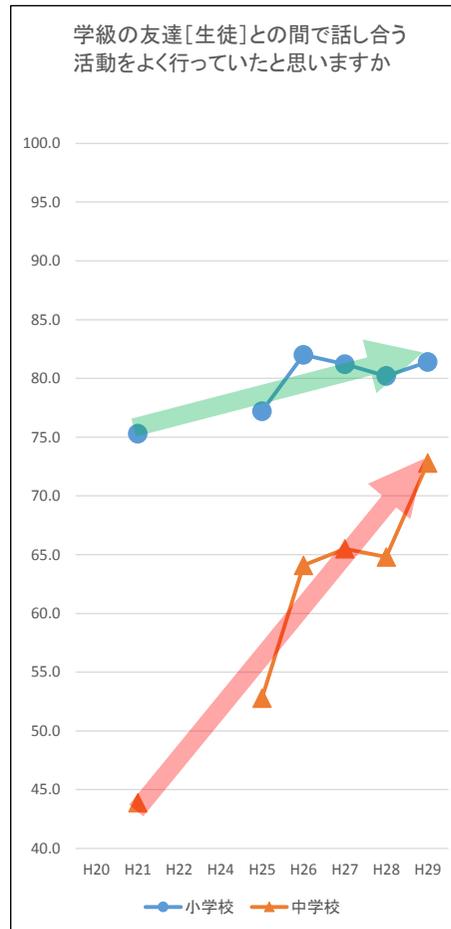
◎自ら考え、自分から課題に取り組むこと



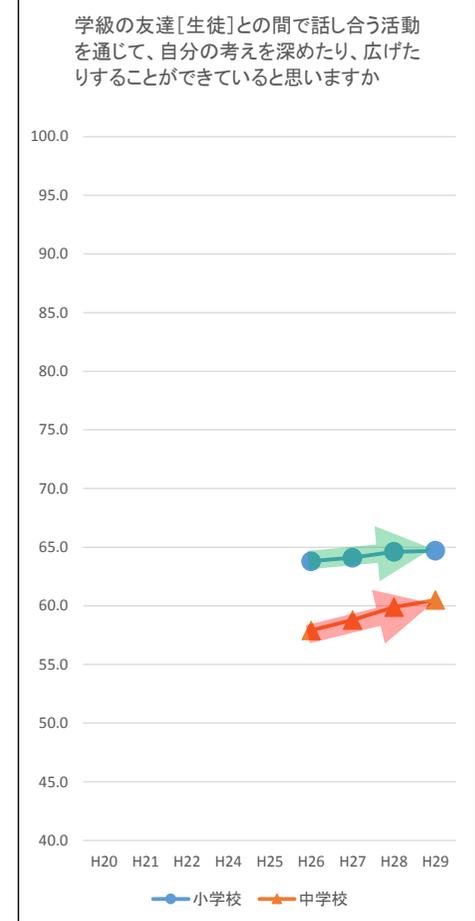
◎自分たちで課題を立てて、その解決に向けて探究的に学習活動に取り組むこと



◎話し合う活動をよく行うこと



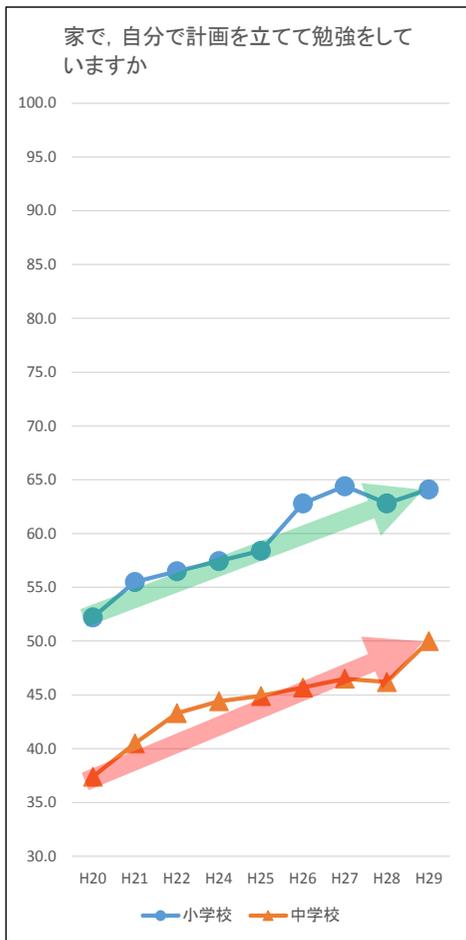
◎自分の考えを深めたり、広げたりすること



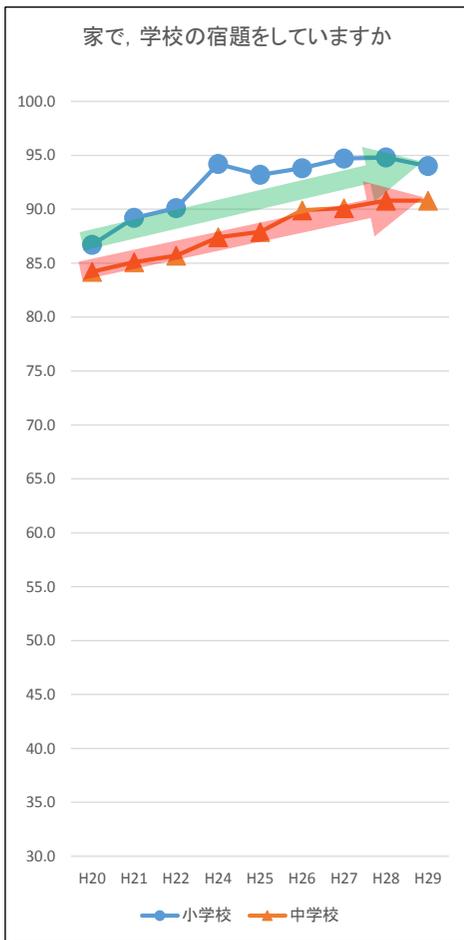
- ◇「学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか」という項目において、小学校、中学校ともに昨年度よりも上昇している。
- ◇特に中学校においては、「学級の生徒との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」という項目が、大きく上昇している。
- ★「課題探究的な学習」に対する教師・子どもの意識が向上している。
- ◆「自分の考えを深めたり、広げたりすること」については、小学校、中学校ともに60%台で推移している。
- ◆特に小学校においては、「話し合う活動をよく行っていた」と感じる児童の割合が80%台と高いにも関わらず、深い学びにつながっているという意識は65%程度と15ポイント程の差が見られることが課題。
- ★子どもが学びのよさや、できるようになった喜びを実感できるよう、話し合う活動が個々の子どもの深い学びにつながるということが重要である。(「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントの3、4及び課題探究的な学習におけるセルフチェック例の5、6に関連)

学習習慣の状況

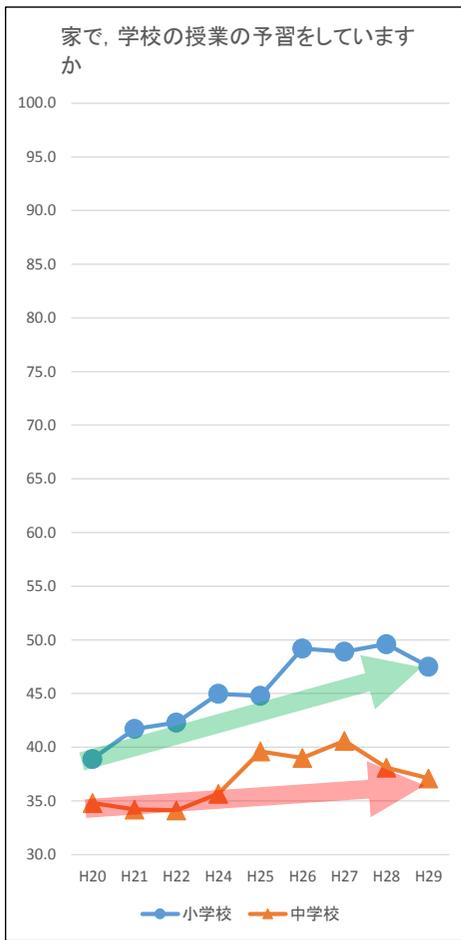
◎計画的に家庭学習をすること



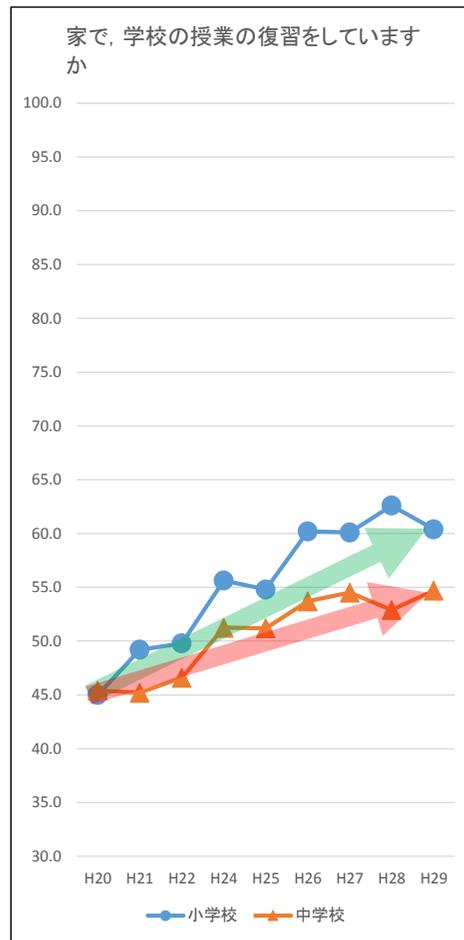
◎学校の宿題をすること



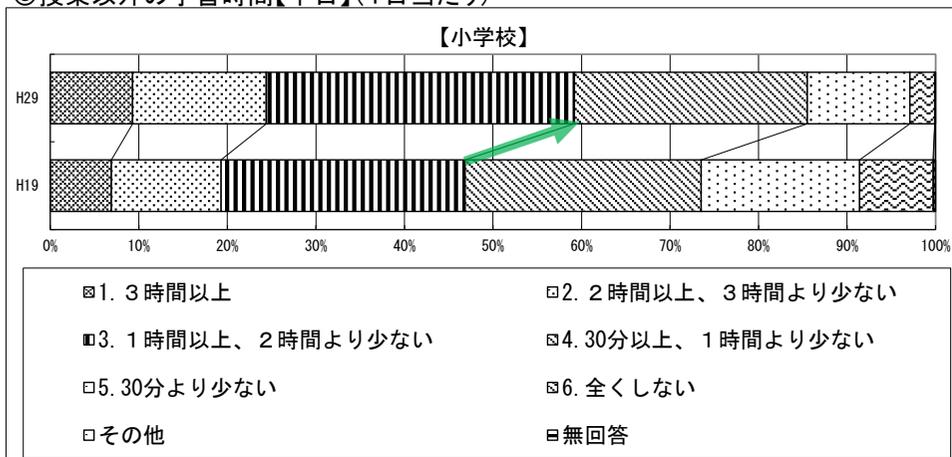
◎授業の予習をすること



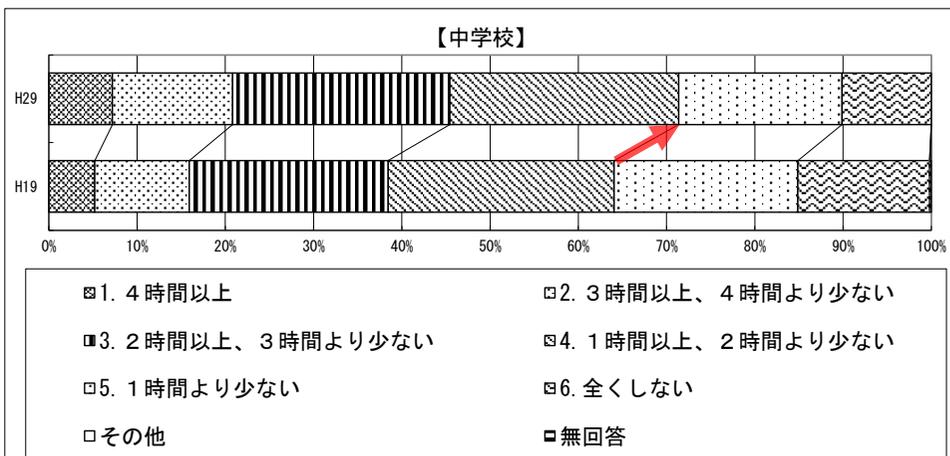
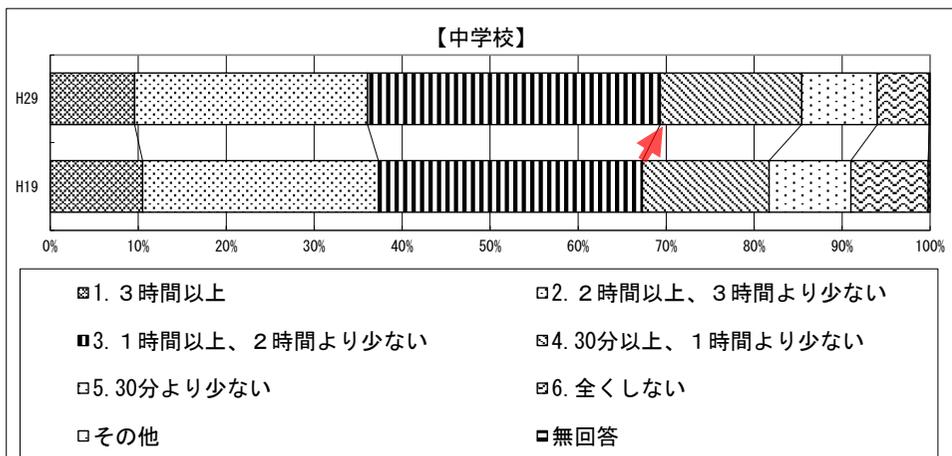
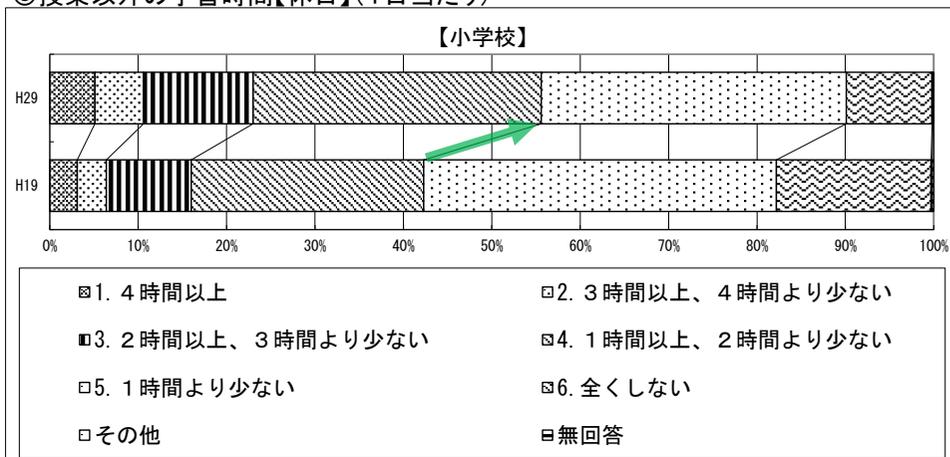
◎授業の復習をすること



◎授業以外の学習時間【平日】(1日当たり)



◎授業以外の学習時間【休日】(1日当たり)



◇「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」「家で学校の宿題をしていますか」「家で、学校の授業の復習をしていますか」という項目において、小学校、中学校ともに肯定的な回答の割合が上昇傾向にある。

◇小学校、中学校ともに、平日及び休日の授業以外の学習時間が1時間以上であると回答している子どもの割合が、この10年で上昇している。特に、小学校においては、平日、休日ともに全く学習しないと回答した子どもが半減している。

★各学校において、「学ぶ力」育成プログラムに「学習習慣の定着」を位置付け、子どもの実態に合わせて、具体的な取組を図ってきた成果と捉えられる。

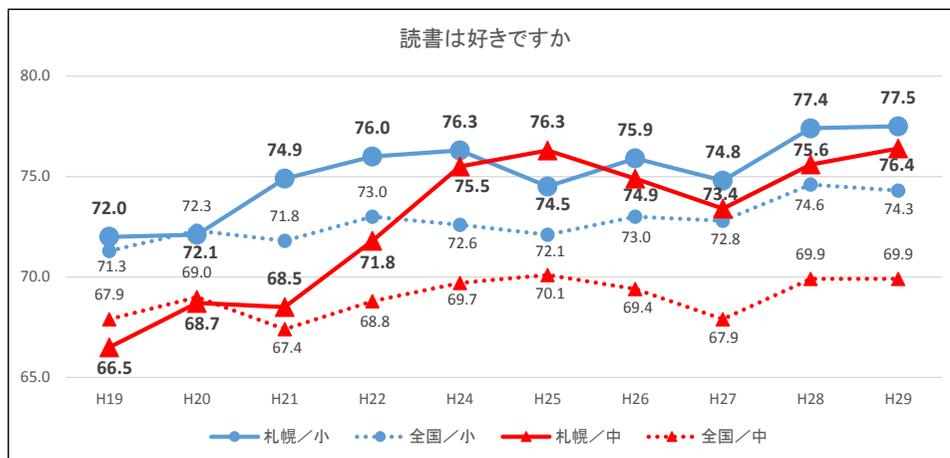
◆小学校、中学校ともに、「家で、学校の授業の予習をしていますか」という項目において、肯定的な回答をした子どもの割合は50%に満たない状況にある。

◆「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」という項目では、肯定的な回答をした子どもの割合は、小学校が64%程度、中学校が50%程度である。

◆平日の授業以外の学習時間が1時間未満の子どもの割合が、小学校では41%程度、中学校では31%程度である。

★学習習慣については、意識の向上は見られるものの、継続的な課題。

読書習慣の状況



◇本市の子どもは全国と比較して「読書好き」が多い。

◇小学校、中学校ともに、今年度、これまでで最も高い数値になっている。

★札幌らしい特色ある学校教育として、平成22年度から本格的に「読書」に係る取組を行ってきており、その成果と捉えられる。

★本を読んだ経験が、生活に生きたり、自分の考えに影響を与えたりという実感を子どもが感じられるようにすることが重要である。

→「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントの2、5に関連